

理事長所感

2022年6月3日

理事長 助川英治

5月26日の通常総会において、経営支援NPOクラブの理事長という責任ある役割を引き続き担うことになりまして、身が引き締まる思いで一杯であります。会員の皆様のご協力に感謝申し上げますと共にこれからのご協力をお願い申し上げます。

新体制のスタートにあたり、所感を述べさせていただきます。

- * 新体制の理事は、2期目が7人、1期目が7人とフレッシュなメンバーですので、新しい感覚でNPOクラブ発展の為に活発な発言、提案を期待しています。組織の活性化は重点課題の一つですので「明るく活気溢れる理事会」にご協力をお願いいたします。
- * 長期に亘るコロナ禍の影響もあり、本年度予算は昨年、一昨年に比べて厳しい内容となっております。販路開拓支援を中心とする収益活動で着実に実績を挙げて行くと共に積極的な案件（委託元）開拓を心がけて頂きたいと思っております。また、必要に応じてCP（コンテンジェンシープラン：緊急時対応計画）に基づく予算管理を行ってまいります。皆様の知恵を結集してこの難局を乗り切って行きましょう。
- * 「2021～2023年度中期活動方針」の2年目となる本年は昨年設定した重点課題の見直しを行い、収束する課題、継続する課題、加速する課題、必要に応じて新設する課題を見える形で整理して行きたいと思っております。案件（委託元）開拓、多角的経営支援活動、特定支援会員への取組み強化、正会員の勧誘、特定支援会員の増強、研究会活動などへの取組み成果の共有化を図ると共にウイズコロナにおける支援活動のあり方、支援活動後のフォロー、会員構成を考えるなどの新たな課題設定も考えられます。加速する課題は、次世代育成支援活動、会員オリエンテーション・サポート（エルダー制度）、支援活動環境整備・対話の場の拡大（会員の活性化）などが考えられます。会員の皆様には重点課題に関心を持って頂き、積極的な参画をお願いいたします。
- * 本年はNPOクラブの創立20周年の年で10月5日開催の記念事業開催に向けて諸準備が進んでおります。NPOクラブを支援し育ててくれた関係者皆様への「感謝表明」、20年に亘るNPOクラブの歩みの紹介、活動の総括と更なる発展を期しての「支援活動強化の表明」の機会にしたいと思っております。多くの会員のご協力と準備が進んでいますが、これから更に皆様の協力が必要ですのでよろしくお願い申し上げます。
- * 最後は毎度申し上げていることですが、健康第一での活動をお願いいたします。幸いコロナ対策は大丈夫なようですが、シニアが圧倒的に多いNPOクラブの皆様には為になる話です。東大高齢社会総合研究機構の秋山弘子教授は、「人生100年時代は、前例がなくモデルもない。定年をセカンドライフのスタートと捉え、どう暮らすかが大切だ」と捉え、「働く」「学ぶ」「遊ぶ」「休む」の四つを組合せた暮らしの設計を提案しています。定年後の就労について「社会の中で役割を持っていることが生きがいになり、健康にもいい。年を重ねるに連れて徐々に「休む」を増やししながら、その都度、設計を見直せばいい」とアドバイスしています。会員の多くの方に参考になる話と思い再度紹介いたしました。

以上